

県提案

3 2025 年に目指すべき医療提供体制の方向性

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、鈴亀区域については、平成 27 (2015) 年から平成 37 (2025) 年の 10 年間で 1,600 人の人口減が見込まれています。その後は 5 年ごとに 3,000~5,000 人の人口減が見込まれています。

一方、65 歳以上 75 歳未満人口は平成 37 (2025) 年頃にかけていったん減少するものの、その後再び増加するとともに、75 歳以上人口は平成 42 (2030) 年頃まで増加し、その後ほぼ横ばいになることが見込まれています。

以上により、当該区域の医療需要は、当面、一定程度高い状態で推移することが予想されます。

このような中、平成 26 (2014) 年病床機能報告の状況からは、鈴亀区域については回復期機能の一層の充実が求められるといえます。

- 厚生連鈴鹿中央総合病院には、引き続き当該区域において、急性期機能の中核を担う医療機関として位置づけられることが必要といえるのではないかと。
- 鈴鹿回生病院については、急性期機能の一層の充実・強化を図る必要があるといえるのではないかと。
- 亀山市立医療センターについては、一定の急性期機能を確保するほか、回復期機能の充実・強化を図り、鈴鹿回生病院や厚生連鈴鹿中央総合病院との連携体制を構築することとしてはどうか。
- 当該区域では、津や三河区域に所在する医療機関との連携も必須といえるのではないかと。

引き続き、当該区域においては、回復期機能の充実について検討していくことが求められます。

上記の詳細及びその他の病床を有する医療機関の機能については、将来にわたる人口動態等をふまえながら、地域医療構想調整会議において引き続き検討していくこととします。